

「あと施工アンカーの長期許容応力度に関する調査」共同研究者打合わせ

議事録

2010、11、22 大森

A. 日時：平成22年11月15日(月) 13:00~15:30

B. 場所：JCAA会議室

C. 出席者：アシス：村上、田島

JCAA: 川上、細川、相葉、高橋、水上、西田、水野、大森、事務局(亀乃園、大場)

学識経験者：地濃

建築研究所：福山、向井

UR：澤井、中對、渡部 (敬称略)

D. 提出資料

- 資料1-1：「あと施工アンカーの長期応力に関する調査」共同研究者打合わせ会議事録(案)(事務局)
- 資料1-2：JCAA長期許容応力度検討委員会(案) (事務局)
- 資料2：平成22年度「あと施工アンカーの長期許容応力度検討作業部会議事録(案) (大森委員)
- 資料3-1：あと施工アンカーの引張クリーブ実験 (中野委員)
- 資料3-2：せん断クリーブ実験状況 (田島、高橋委員)
- 資料3-3：樹脂硬化物圧縮試験及びポアソン比実験計画 (水上委員)
- 資料3-4：FEM解析計画 (柏崎委員)
- 資料3-5：文献から見たひびわれ低減係数 (大森委員)
- 資料4-1：基準整備事業報告書と建研報告書での取り纏め内容(案) (向井委員)
- 資料4-2：共同研究報告書 目次(案) (向井委員)
- 資料4-3：平成22年度基準整備事業報告書 目次(案) (細川委員)
- 資料5-1：あと施工アンカーに求められる性能(UR調査資料から) (細川委員)
- 資料5-2：接着系アンカーボルトの設計「各種合成構造設計指針改定版抜粋」 (細川委員)

E. 議事

1. 提出資料等の検討

資料1-1について：

メンバー全員の自己紹介の後、細川委員より、前回議事録の紹介があり、特に意見はないので(案)をとることとした。本日は特にURにもご参加いただいた。

資料1-2について：

細川委員よりJCAAサイドの委員会名簿についての報告があった。

資料2について：

去る11月5日に開催された許容応力度検討作業部会議事録につき、細川委員からの紹介があった。

資料3-1について：

中野委員欠席のため、相葉委員より現在新潟工大で実施中の引張クリーブ実験の状況報告があった。

カウンターウェイト方式およびばね方式の両方の試験装置で実施中。とくには問題なし。約10日経過した現在、変位測定で大きな変化がみられないので、パラメータを変えるかどうか討議され、このままデータ測定を

続けてほしいとの意見があった。D19のアンカー筋に対して穿孔径は25mmとしている。

資料3 - 2について：

せん断クリープ実験状況につき高橋委員より説明があった。

昨年度に実施した引張クリープ実験では異型鉄筋を採用しており、せん断実験では全ねじボルトを採用しているので、その整合性が討議された。クリープ変位の比較では、M12サイズではあと施工アンカーの方が大きい、M20サイズでは先付けの方が大きくなっている。

資料3 - 3について：

樹脂硬化物圧縮試験の状況について水上委員より説明があった。樹脂厚みを当初3mmのみとしていたが、厚みの影響をつかむため、1.5mmと5mmを追加した。現在治具手配中で、12月末までには試験を実施する予定。ポアソン比試験は12月13日に試験開始予定。

資料3 - 4について：

へりあきFEM解析につき、柏崎委員欠席のため、代わりに高橋委員が説明した。今年度は非線形解析により、変位解析も行う。樹脂硬化物実験結果を入力に採用する。破壊界面(樹脂/コンクリート間および鉄筋/樹脂間)の影響までは考慮されない。解析結果を実験結果と比較し、設計への応用についても言及する。

資料3 - 5について：

文献からみたひびわれ低減係数につき大森委員が説明した。

コーン破壊に対しては低減係数を0.7とするものが大勢をしめている。

付着破壊に対しては、0.5とするものが大勢を占めるが、定着長を大きくすることでひびわれの影響を回避できるとの報告もある。AIJ各種合成構造設計指針でも同様の考えが記載されている。

資料4 - 1について：

基準整備事業報告書と建研報告書での取り纏め内容(案)について向井委員より説明があった。各項目について纏め方のちがいをあきらかにした。

資料4 - 2について：

共同研究報告書の目次(案)について向井委員より説明があった。各項目の担当者と内容につき、この案に沿って進めることとした。

資料4 - 3について：

平成22年度基準整備事業報告書 目次(案)について細川委員より説明があった。資料4 - 2とあわせて各担当者はまとめることとした。

資料5 - 1について：

UR調査資料から抜粋した、ひばりが丘団地改修実験例におけるあと施工アンカーの用途例を細川委員が紹介し、中対委員が内容説明した。壁式構造にてスラブ新設やエレベーター設置等の代表例があるが、他の構造体でも十分適用可能である。

資料5 - 2について：

接着系アンカーボルトの設計「各種合成構造設計指針改定版抜粋」が細川委員より紹介された。この中でへりあき低減係数として $\eta = 0.5(c_n/l_e) + 0.5$ が規定されている。2. その他

アシス、JCAAサイドの長期許容応力度検討委員会を11月25日に予定している。

次回共同研究者打ち合わせは2011年1月13日(木)14:00を予定する。

(以上)

(社)日本建築あと施工アンカー協会

〒101-0024

千代田区神田和泉町1-7-2

TEL.03-3851-6358 FAX.03-3851-6378

e-mail jcaa.tck@sirius.ocn.ne.jp